

夏季教職員研修の実施によるモビリティ・マネジメント教育の実践の普及

大阪大学大学院工学研究科 松村 暢彦
兵庫県阪神北県民局 高見 忠良
兵庫県阪神北県民局 金澤 真文
川西市都市整備部 中津留 幸紀

概要

兵庫県阪神北県民局においてはモビリティ・マネジメント教育の小学校での普及のために、夏休み期間中に教育委員会と協働で社会科教育研修会を開催し、秋以降の小学校における実践につなげる試みを実施して、効果をあげている。現場の教員にモビリティ・マネジメント教育の教材を体験してもらう機会を設けることを目的として、平成23年度は川西市、伊丹市で社会科教育研修会で交通すごろくおよびフードマイレージの実践を行い（90分間）、その後モビリティ・マネジメント教育の説明（45分間）を行った。その結果、北陵小学校3年生、桜ヶ丘小学校3年生でフードマイレージを牧の台小学校6年生で交通すごろくを桜ヶ丘小学校1年生でピン・ボン・バスの授業を実施することができた。いずれの小学校でも現場教員から好評を得ており、平成24年度も社会科研修会や桜ヶ丘小学校、牧の台小学校で継続して実践する予定である。

内容

交通・環境学習キッズプログラム

◆背景と目的

交通は社会の基盤を支える機能として、生活のさまざまな場面に深く関わっているが、現在の学校教育の中で題材として取り上げられる機会は比較的に少ない。

- ・公共交通は、大量輸送機関であり、環境負荷が自動車の約1/3（バス）～約1/9（電車）と非常に低い。
- ・いつでもだれでも利用できる乗り物（運転免許が不要で老若男女が利用可能）であり、公共性が高い。
- ・多様な人が一定の時間・空間を共有するため、公共が具体的に見える場であり、公共心育成のための教育の場としての意義がある。

といった特徴を有し、これらは学校教育におけるさまざまな学習テーマと関連のある内容であると考えられる。

一方、近年モータリゼーションが進展し、公共交通機関と比較して利便性に勝る自動車の利用がますます増加する中、子供たちが公共交通を利用し、その役割を理解し、あるいは、その利用により公共性を身につける機会が激減している。このような背景のもと、兵庫県阪神北県民局では、管内市町と連携して、公共交通を題材とした体験的学習プログラムを展開していくこととしている。

年度	実施日	実施学校	対象学年	実施内容	参加人数
23年度	H23.12.16	川西市立牧の台小学校	6年	交通すごろくで社会を考える	交通双六 86
	H23.11.24	伊丹市教職員		交通・環境学習キッズプログラムの活用について	フードマイレージ 12
	H23.10.20	川西市立北陵小学校	3年	買い物から環境と社会を考える	フードマイレージ 111
	H23.10.14	川西市立桜が丘小学校	1年	「ピン・ボン・バス」でつながる わたしたち	絵本「ピン・ボン・バス」 53
	H23.10.14	川西市立桜が丘小学校	3年	買い物から環境と社会を考える	フードマイレージ 43
	H23.7.29	川西市教職員		交通・環境・まちづくりを題材とした体験的学習プログラム	交通双六 16
22年度	H22.12.14	川西市桜が丘小学校	3年	「しなものはどこから」とMM授業	フードマイレージ 92
	H22.11.30	伊丹市立有岡小学校	6年	交通双六	交通双六 47
	H22.8.2	川西市教職員		交通・環境・まちづくりを題材とした体験的学習プログラム	フードマイレージ 31
21年度	H22.3.1～21	伊丹市立有岡小学校	6年	(市交通局バスへのポスター掲示)	108
	H21.11.6	伊丹市立有岡小学校	6年	(伊丹市交通局による出前講座)「伊丹市バスの過去から現在」	108
	H21.10.22	伊丹市立有岡小学校	6年	伊丹の未来の交通・まち	交通双六 108
	H21.9.4	川西市立牧の台小学校	6年	わたしたちが大和にできること	交通双六
20年度	H20.12.11	川西市立牧の台小学校	6年	まどめの講座	69
	H20.11.27～28	川西市立牧の台小学校	6年	学習発表会	69
	H20.9.28	川西市立牧の台小学校	6年	わたしたちのまち・大和	交通双六 69
	H20.9.11	川西市立牧の台小学校	6年	(能勢電鉄社員による出前講座)能勢電鉄の歴史と役割について	69
19年度	H20.2.28	川西市立東谷小学校	6年	学習発表会	141
	H20.1.25	川西市立東谷小学校	6年	「川西再発見」(地域と交通)中間発表会	141
	H19.11.5	川西市立東谷小学校	6年	(能勢電鉄社員による出前講座)能勢電鉄の歴史と役割について	141
18年度	H19.1.30	川西市立東谷小学校	5年	車と与える環境への影響	交通双六 131

教職員向け社会科教育研修（「交通・環境・まちづくりを題材とした体験的学習プログラム」）

社会科教育研修の内容

主催：川西市教育委員会

共催：兵庫県阪神北県民局、川西市都市政策課

開催時期：夏休み期間中

平成22年度 8/2 10時～12時

平成23年度 7/29 10時～12時

時間：2時間

内容：45分 体験授業（フードマイレージもしくは交通双六）

30分 座学（MM教育とは）

15分 質疑応答

講師：松村暢彦（大阪大学大学院工学研究科 准教授）

参加者：市内小学校教諭

平成22年度 31名



フードマイレージの体験学習



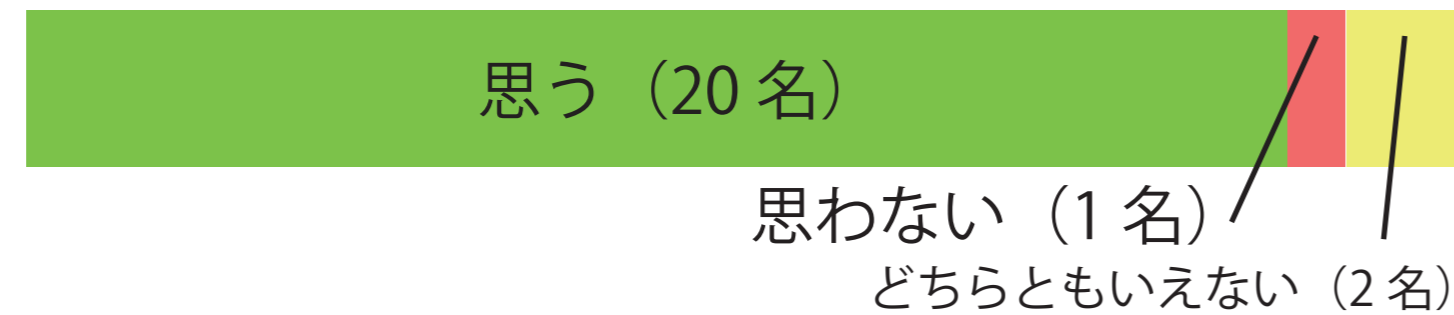
交通双六の体験学習

アンケート結果

今年度MMを実施しようと思いませんか。



次年度以降、MMを実施しようと思いませんか。



研修受講者の感想

- ・今回のような実践に結びつくような研修は大変いいと思います。あともう一つくらい実践的内容があればよかったです。
- ・新しいキーワードを知れました。実態と実践には高い壁があるものもありますが、正しく知ることは大切だと思いました。地域にある公共交通機関とも連携し、社会性だけでなく、歴史のこと、将来のこと子どもたちに考えさせたいと思いました。
- ・小学校向けの教材のお話でしたが、大変参考になりました。中学校でも何らかの形で活用できないか、考えていきたいです。
- ・準備が大変だったと思います。よくわかりました。ありがとうございました。
- ・フードマイレージやモビリティ・マネジメント(MM)などの言葉を初めて知りました。フードマイレージなどを考えて、普段自分自身の買い物など意識して買い物していませんでしたが、今回の研修を活かして、私自身も含め児童にも伝え、授業に活かしていきたいです。
- ・実感として、二酸化炭素の排出量、環境への影響をとらえられる教材と感じました。ありがとうございました。
- ・買い物の仕方、環境に関係することもわかりました。モビリティ・マネジメントという学名がよくわかりました。
- ・新しい考えをもらえ、体験することもでき、より内容の楽しさを知ることができました。本当にありがとうございました。
- ・土木・交通と自分たちとの関係、環境との関係について考えようと思える内容でした。ありがとうございました。
- ・「フードマイレージ買い物ゲーム」の取り組みがよかったです。体験的な取り組みでもおもしろかったです。ありがとうございました。
- ・とてもいい勉強になりました。一度授業でしてみたいです。これから買い物する時はいろいろなことを考えて買い物したいと思います。
- ・体験的学習は子どもたちにとって有効であるので、ねらいをはっきりさせた上で取り入れていきたいです。考えながら学習する形態はもっと増やしていきたいです。ありがとうございました。
- ・フードマイレージに興味がありました。おもしろい話だと思いました。
- ・自分たちの住んでいる町をより詳しくする学習に、クイズ感覚で取り組める上に、環境面も含まれていることに感じました。判断することの大切さを改めて見直したいです。
- ・フードマイレージという言葉を知りました。ゲームを通し、わかりやすく学習することができました。今日はありがとうございました。
- ・MM(モビリティ・マネジメント)教育を初めて知りました。行動の判断に「環境」という面を加えることが大切だと感じました。答えがない問題を考えてみよう、解いてみようというエネルギーが学校に必要なと思いました。
- ・社会科の授業は退屈なイメージが強くありましたが、体験型(ゲーム)の授業はとてもわかりやすく、楽しく勉強することができました。ありがとうございました。
- ・体験しながら取り組めるのがいいなと思いました。児童にどんな力がつくのか、どんなまとめができるのか、考えてとり組んでいけたらと思いました。
- ・体験から、交通や環境のことが学べる、わかりやすい事例でした。教材等借りてやってみたいと思いました。交通すごろくもしたかったです。
- ・フードマイレージ買い物ゲームを体験して、ゲームからいろいろなものが学べるなと思いました。子どもたちも楽しんでやってくれそうです。
- ・机上で知識を学ぶ(知る)だけの社会の授業が多いので、自分とのかかわりが深く知れる授業内容にもなっており大変参考になった。
- ・教材の貸し出しなどしていただければ、川西市でも広がるのではないのでしょうか。1から作ったりすると大変そうですし、その時間の確保が難しいです。
- ・フードマイレージを実際に体験して学ぶことができてよかった。体験的に学ぶことができてよかった。環境という視点でも考えられるという、多様な視点についても育てられる様子であった。しかし、準備が大変そうであった。
- ・環境総合の一つの切り口であると思った。

交通・環境学習キッズプログラムの実施

結果

- ・教職員向けの社会科教育研修を活用することによって交通環境学習の実施校の拡大に寄与することが明らかになった。
- ・体験授業を組み込んだ研修は、参加した小学校教諭からも高い評価を得ている。
- ・より恒常的に実施していくためには教科教育に取り込むような働きかけが必要になる。